

足柄上医師会と 災害時医療体制 について①

これまで、当地区の災害時医療体制づくりは、実用的なものではありませんでした。それは地震の規模として、阪神淡路クラスのものと考えていたからです。そんな時に地域の医師、自治体も何かできるのか、ということでもあまり考えても仕方がないという感じでした。

昨年より、中規模地震の際には、当地区でも、自治体、医師会が一緒に行動をとらねばならぬと検討をはじめました。足柄上地区では、歯科医師会、薬剤師会が災害時の救急医療に対し積極的に、この問題は三師会の事業となつていきます。

こういつ時期に、中越地震が起こったので、この事例を検討し対策をたてることになりました。

平成十七年二月一日、三師会と自治体の防災担当者、衛生担当者が一室に会し中越地震の現地へ行って来た人達の報告会を開きました。いずれも発災後三〜四日以後なので、救護所で健康管理が主題となりました。



一、「中越地震救護に医療チームと参加して」

県立足柄上病院副院長
宮本 一行 先生
看護師
田中 順子、宮坂 ゆかり さん

平成一六年十月二十七日(水)
〜十月二十九日(金)

医師一名、看護師二名、保健婦一名、事務員一名、運転員二名の神奈川県の医療チームとしてバスで越路町へ、越路町は人口一四、四五九名で避難所九ヶ所に二、九二二名避難していました。すでに徳州会グループが活動しており、一緒に活動することになりました。

避難所では窮屈な姿勢で長時間いると障害を起すこともあるので、ラジオ体操をしたり、カゼの流行に備えてうがい励行など行っていた報告がありました。おくすり手帳や症状を書いた手帳を持っていく人が多く健康状態の把握に大変有効でした。(家にとりに行けた)寝たきりの人などで救護所にこられない人もいたとのことでした。



二、「中越地震救護に医療チームとして参加して」

神奈川県薬剤師会
副会長 相田 邦彦 先生
小田原薬剤師会
理事 天野 光恭 先生



十一月十四日〜十一月十六日 小千谷市中心に薬剤師ボランティアと参加しました。薬剤師会としては支援薬品分類、分配やおくすり相談所の開設を行い、後半はうがい薬の調整を主に行いました。支援の薬品類はダンボールの表面に内容の分りやすい表示がないと仕分けが困難で使えないこととなってしまったものも多かったようでした。すでに三週間を経過していたが、下水道が使えず水洗トイレが使えなかった。

三、阪神淡路大地震の

教訓は生きたか
南足柄防災課長
須谷 美實 氏

四、「新潟県中越地震第二次災害救護派遣職員活動報告」

開成町環境防災課長
内藤 登 氏
ライフライン、特に電気とガスの復旧にあたり電気会社などの職員が充分事前点検を行っていたことなどは、火災が起きなかった大きな原因

だったと考えられます。

民家では家具の散乱などがひどく、個々の家庭では家具の倒壊防止などが充分に行われていなかったようでした。

資材などは多数送られてもその分別、配布が非常にむずかしかった。

避難所の掲示板、テレビ、ラジオの放送などによる情報の伝達が大切な役割を果たしていました。また、報告者のみなさんが一様に感じたのは住民の方々の一体感の強さで、避難所の生活が長くなるこの要素が大きく物をいつているようで、我々の地域では少し心配という意見でありました。

また、共通して指摘するところは情報の全体的把握のむずかしさ、広報の一元化の必要性が主なものだった。どこに行けば何が分るのか、ボランティアなどが日々変わるの、うまく統率する人がいないと生かせないということでした。

当面当地区で、努力することは家具の倒壊防止が最重要課題としてあげられていた。

これまでの情報をまとめてみると、発災が土曜の夕(五時五十六分)であり、火災がほとんどなかったなどが幸いして医療機関へのダメージは少なかった。その割には余

震が続く避難所に避難した人が多く避難所生活が長時間になつたことが特徴的と思われれます。カゼなどの伝染性疾患を抑えられて良かったと感じられます。

避難所生活の健康管理がたいへんだつたと考えられますが、この方も現地医師、日赤、応援医師などで分担をし、うまくいったようでした。(次号へ続く)

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

★受け付けからのお願い

月初めには必ず保険証を受け付けにお出し下さい。

診察券は毎回お持ち下さい。

☆編集に当たり校正には十分注意致しましたが、誤字・脱字等がありましたらご容赦下さい。

3月・4月の休診日

休 診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜・第4木曜

E・メールを送って下さい。
norikazu@okutu.jp

